

◆ 活動予定 ◆ 第一部門国際フォーラム

「気候変動が自然災害に及ぼす影響とその適応」

日時 2010年2月22日(月) 10:00 ~ 16:00

場所 茨城大学 日立キャンパス インノベーションルーム

講演 **ファロック・ナディム博士** (ノルウェー・地盤工学研究所)  
 「地すべりの危険性に関する世界的な変化とヨーロッパへの影響」

**チュンスイク・ユー教授** (韓国・成均館大学)

「韓国における豪雨に起因する地盤構造物の最近の破壊事例」

**小峯秀雄教授** (茨城大学工学部)

「地球温暖化による影響を軽減するための適応策と対策」

**アブソンスダ・シリポン博士** (タイ・チュラロンコン大学)

「タイにおける沿岸の浸食管理に関する海面上昇のための

戦略的な計画」

**村上哲准教授** (茨城大学工学部)

「気候変動と地震の複合に起因する液状化災害の経済的損失評価」

**三村信男教授** (茨城大学工学部・広域水圏環境科学教育研究センター)

「工学、政策そして持続可能な開発

-気候変動研究における多分野融合の役割-」



★ 多数のご参加をお待ちしております。 ★

◆活動予定◆ 第4回いばらき地域サステナワークショップ

- エコをコンセプトにしたまちづくりの実践 -

日時 2010年2月24日(水) 13:30 ~ 16:45

場所 茨城大学水戸キャンパス 環境リサーチラボラトリ棟 遠隔会議室

活動報告 泊和太様 (城里町商工会)

島田敏様 (筑西市明野商工会)

岡田久典様 (早稲田大学)

切川卓也様 (早稲田大学)

三上靖彦様 (水戸藩開藩四百年記念 『桜田門外の変』映画化支援の会・事務局長)

田村誠 (茨城大学ICAS)



◆ 活動予定 ◆ 学生サステナフォーラム

今年度もサステナビリティ学に関わる学部生、大学院生によるポスター発表および研究交流の場としての学生サステナ・フォーラムを開催します。ポスター発表に先立ち、インドネシア・ガジャマダ大学学長の講演会が開催されます。多数のご参加をお待ちいたしております。

開催日時・場所 2010年3月2日(火) 茨城大学水戸キャンパス

10時-11時 ガジャマダ大学学長講演会(茨苑会館2階)

11時-14時 ポスター発表(茨苑会館1階展示室)

14時-15時 フリーディスカッション(茨苑会館1階食堂) 軽飲食付

工学部安原一哉教授(ICAS兼務教員)最終講義と祝賀会のご案内

2月26日(金)15:00-16:30 日立キャンパス E1棟 100番教室  
 18:00-20:00 ホテル日航日立 JR日立駅中央口より徒歩2分  
 最終講義後、日立キャンパスからホテル日航日立までシャトルバス運行

4月	4/20~ ICAS研究セミナー・原則毎週月曜日 15:00~ (水戸ICAS本部) 4/24 茨城大学バイオ燃料社会プロジェクト・ワークショップ(三の丸庁舎)
5月	5/1,25 ICAS研究セミナー(水戸ICAS本部) 5/19-21 IR3S/チンダルセンター 国際シンポジウム(英・イーストアングリア大学) 5/25 IR3S/豪大使館 日豪国際高等教育シンポジウム(オーストラリア大使館) 5/30 茨城大学地域貢献シンポジウム(水戸常陽藝文センター)
6月	6/8,15,22,29 ICAS研究セミナー(水戸ICAS本部) 6/10-12 IR3S/国際連合大学 教育シンポジウム(国連大学) 6/13 第1回集中講義「サステナビリティ学入門」(水戸キャンパス) 6/20 第2回集中講義「サステナビリティ学入門」(水戸キャンパス)
7月	7/1 ICSS-Asia 国際運営委員会第一回会合(タイ・アジア工科大学) 7/4 第3回集中講義「サステナビリティ学入門」(水戸) 7/6 ICAS研究セミナー(水戸ICAS本部) 7/28-29 IR3S教育担当者会議
8月	8/3,17 ICAS研究セミナー(水戸ICAS本部) 8/7 ICAS第二部門研究会議 8/20 ICAS第三部門研究会議 8/22-30 国際実践教育演習(タイ)
9月	9/1,25 ICAS研究セミナー(水戸ICAS本部) 9/4 ICAS年報2009発行 9/8 ICAS総括サステナフォーラム 9/11-13 国内実践教育演習(大洗・酒沼)



平成21年度 ICAS/IR3S カレンダー

10月	10/10 ICAS/TIEPh 国際セミナー(東洋大学)
	10/14 ICAS研究セミナー(水戸ICAS本部)
	10/17 茨城大学・茨城県・茨城産業会議共催シンポジウム(水戸三の丸ホテル)
11月	10/20-21 第1部門海岸浸食と適応策の国際ワークショップ(茨城大学水戸キャンパス理学部インタビュースタジオ)
	10/26 ICASサステナフォーラム(水戸遠隔会議室)
	11/7-8 第5回国際学生会議(ICSIU5)(茨城大学インフォメーションセンター)
12月	11/9, 26 ICAS研究セミナー(水戸ICAS本部)
	11/16-17 S4国際シンポジウム(東京大学浜離宮、他)
	11/23-24 ICSS-Asia(アジア工科大学・タイ)
	11/28 W-BRIDGE一周年記念シンポジウム(早稲田大学)
	12/4 第1部門ワークショップ(水戸インフォメーションセンター)
	12/7, 22 ICAS研究セミナー(水戸ICAS本部)
1月	12/8 ICAS外部評価委員会
	12/11 国際シンポジウム:農業イノベーションによるバイオ燃料社会の構築(水戸三の丸 県立図書館視聴覚ホール)
	12/17 IR3S第7回戦略的研究拠点育成評価委員会
	12/19 IR3S共通科目「サステナビリティ学最前線」
	12/21 IR3Sサステナ座談会
2月	1/9 IR3S共通科目「サステナビリティ学最前線」
	1/12, 18 ICAS研究セミナー(水戸ICAS本部)
	1/23 IR3S共通科目「サステナビリティ学最前線」
3月	2/10 ICAS研究セミナー
	2/12 IR3S最終ワークショップ
	2/13 サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム設立説明会
	2/22 第一部門国際フォーラム(日立キャンパス)
	2/24 地域サステナワークショップ(水戸キャンパス遠隔会議室)
	2/27 IR3S生態系公開シンポジウム
3/2 ガジャマダ大学講演会及び第3回 ICAS 学生サステナ・フォーラム(水戸キャンパス茨苑会館)	
3/8 IR3S第8回戦略的研究拠点育成評価委員会	

\*網掛けは ICAS が主催する企画です ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp

◆ 活動報告 ◆

IR3S共通科目

集中講義「サステナビリティ学最前線」開講

平成21年12月19日(土)、平成22年1月9日(土)、1月23日(土)の3日間にわたり、平成21年度IR3S共通科目「サステナビリティ学最前線」が開講されました。遠隔講義システムを用いて5大学間で映像・音声を中継し、大学院生が真剣に講義を受け討論に参加しました。

茨城大学ICASからは機関長三村信男教授による「気候変動の影響と対応策」と、伊藤哲司教授による「人間科学からのアプローチ」の2つの講義が発信されました。

◆ みんなのエコソフィー -3- ◆

人々をつなぐもの

エコソフィーとは？

あなたや私の行動は地球や環境に直接または間接に影響を与えます。エコソフィーとはその行動のよりどころとなる基本の世界観です。



私たちは研究分野が違うだけでも世界を捉える視点が全く異なることがあります。家の隣の畑で大量の除草剤を撒きつつ野菜を作っているおばあさんや、世界の国々で何の疑問もなく武装し戦う若者たちなど、世界は宗教・信条・世界観の異なる人々で成り立っています。この多様な人々は多様な行動をとるわけですが、その際の実際的・具体的決定の拠り所となる「原則」において合意することが可能だとする考え方があります。宗教・哲学が如何に違っても、「原則」で合意する例として、『あらゆる生命には人間にとっての有用性とは独立の固有の価値がある』『生命の多様性には価値があり互いに共存することが必要である』『現在の人間の自然界への介入は度を越えている』などの環境哲学の考え方があります。地方の政策策定から国家間の交渉に至るまで「原則」での合意の難しさに直面しつつ、こんにちの地球上の多くの人々があらゆる側面から新しい行動を起こしています。偽物でない正しい「原則」を常に見極めていることが大切な時代となりました。

◆ 本の紹介 ◆

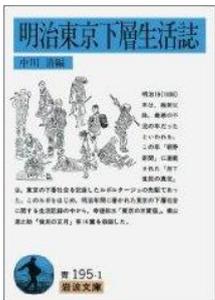
今回は工学部大学院理工学研究所の小澤哲先生にご推薦いただきました。

明治東京下層生活誌 (岩波文庫 青195-1)

中川 清 著

岩波書店 1994年第1刷 2008年第8刷発行 ISBN4-00-331951-6 C0136

江戸の社会は高度に発達したリサイクル社会であったことはよく知られています。それに貢献した人々として、土農工商のさらに下に位置した「穢多(エタ)」又は「非人乞食」がありました。これらの人々は明治になって平民になった後も特定の地区に集団的に生活し、主に廃品回収業に従事しました。その仕事ぶり生活ぶりが鮮明に記述されています。その他、東京多摩地区のボロ市の役割などが紹介されています。その徹底したリサイクルシステムには感激に値するものがあります。文章は明治のスタイルで多少読みにくいところがありますが、あまりにも得るところが多いので3回も復読した本です。



自然の造形と社会の秩序

ヘルマン・ハーケン 著 高木隆司 訳

東海大学出版 1985年第1刷

ISBN4-486-00846-4 C1041

シュツットガルト大学のハーケン教授の名著の訳本です。ハーケン教授は、自然や社会システムが質的に(非線形的に)変化するメカニズムを研究する方法を提案して、「シナジェティクス」という学問をつくりだしました。本の内容は17のトピックスで構成されていますが、全体を非線形というキーワードで統一しています。興味深いトピックスとして、「生物の進化と適者生存」、「最適者以外はいかに生存するか」、「経済における秩序の形成」、「革命は予想できるか」、「科学者はなぜ競争するか」などがあり、最後を「人類の繁栄に向けて」で括っています。これらの問題の答えを物理学の手法で与えようとする点が、この本の特色になっています。本学理工学研究所の博士前期課程の授業「シナジェティクス特論」の種本にしています。



メンバー紹介 會田 洋恵 (あいたひろえ)

ICAS水戸キャンパス事務スタッフ

てんびん座 A型



皆様こんにちは。

9月よりICASで事務補助を担当している會田です。

学生時代は文学部ドイツ文学科、前職はウエディングプランナーと全く関わりのない分野から飛び込んでまいりましたが、

ICASの先生方の研究はとても興味深く、毎日楽しくお仕事させて頂いています。

ICASメンバーの中では珍しい純茨城人なのですが、自分より先生方のほうが茨城のことをご存じて驚くことが多々あります。

サステナビリティ学は多岐にわたる学問ですが、まずは私なりに地元・家族・友人など身近なところからサステナの心を広めていきたいです。

幸せはすぐ隣から。

個性豊かなICASメンバーよりたくさんの発見と幸せをお届けできるよう、微力ですがお手伝いをしていきたいと思ひます。

◆ 活動報告 ◆

IR3S最終国内ワークショップ



2010年2月12日、東京大学山上会館において、IR3S最終国内ワークショップが開催され、関係する12の大学・機関が参加しました。ICASからは三村信男機関長はじめ教員およびICAS専任メンバー6名が参加しました。翌日2月13日にはIR3S後継組織となる「サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)」の設立説明会が開催されました。

ICAS on MEDIA



茨城大学本部事務所の所さん櫻岡さんとICASメンバー

※ 季刊誌サステナ 第14号発刊 ※

IR3S季刊誌「サステナ」の最終刊第14号が、平成22年1月20日発行となりました。

ICASからは農学部中川先生ご出席の座談会、人文学部蓮井先生のエッセイ、教育学部木村先生の連載エッセイの記事が掲載されています。



※ 季刊誌サステナ 総集編予定 ※

平成21年12月21日に行われ、ICASから田村准教授と佐藤研究員が参加した「サステナ座談会」の様子が、年度末発行予定の「サステナ総集編」に掲載されます。

Editor's Note



寒さが続く中にも、そこかしこに春の息吹が感じられます。次号のICAS Newsは新年度を迎え、第二期ICASの新しい編集となります。どうぞよろしくお願いいたします。 MG